ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

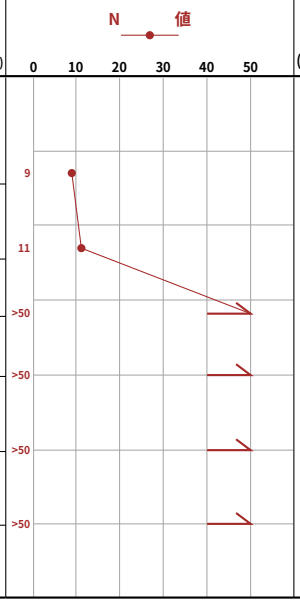
シートNO.

ボーリング名	B-2(No.3+15CL)	調査位置				北　緯	36 ° 54 ' 19.0000 "
発注機関	栃木県大田原土木事務所　整備部　整備第一課			調査期間	2010-09-14 ～ 2010-09-17	東　経	140 ° 07 ' 52.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	200.00 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 5.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘進長	6.01 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
	199.70	0.30	0.30		表土(シルト)(M)	暗褐			0.30mまでは均質なシルト含水量，粘性ともに中位		
1					粘土混じり砂礫(GS-C)	暗褐			崖錐性の砂礫でありφ2～40mmの角礫主体 礫間は粘土・砂により充填されている 全体にルーズな堆積状態 1.80～1.90mは転石点在 孔壁が崩壊し易い		09/15 0.95 09/17 1.35
2											
3	197.00 196.80	2.70 0.20	3.00 3.20		強風化頁岩(Sh)	暗灰			泥岩，固結粘土状を呈す		
4					頁岩(Sh)	暗灰			岩質は概ね新鮮である 割れ目多く割れ目に沿って風化しており，コアは短い コア長はL=5～10cmが主体で，最長L=20cmである		
5											
6	193.99	2.81	6.01			暗灰			岩質新鮮でチャート質となり非常に硬質 割れ目間に軟質部を介在し，送水により流失する		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	4	3	9／30	9
1.45					
2.15	4	4	3	11／30	11
2.45					
3.15	50／7			50／7	>50
3.22					
4.00	50／2			50／2	>50
4.02					
5.00	50／3			50／3	>50
5.03					
6.00	50／1			50／1	>50
6.01					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						09/14
						09/15
						09/17